

# 半導体業界のライオンズ

## シエアーを目指して

### 凛然として神楽坂からの挑戦

アンカー・ビジネス・シス  
テムズ(株) 代表取締役社長

永田 隆一



—25—

先進国においては、肉体労働者に比べて、知識労働者数の増加傾向が一般的であります。

『技術は、陳腐化しながら知識は、急速に陳腐化する』は、ピーター・ドラッカーの主張です。

ここでの技術は、スキルのある事であり、切削・研磨や、金型・メッキ・塗装の技術は、陳腐化致しません。また、東大寺や法隆寺などで使用された『和釘(わくぎ)』や『槍鉋(やりがんな)』の鉄は、表面が薄く酸化されて安定しており、ヒノキ材をやさしく加工するゆえ湿気の入り込むリス

クを大きく低減させると言います。しかし、現代《ERPと銀行業界》

# 知識は陳腐化する・知りながら害をなすな

の国の銀行は、効率良くこのシステムを使いこなすことが出来ませんでした。結局、絵画・骨董品の在庫管理のみに利用したそうです。ERPという、知識産業の雄のA社は、クライアントに膨大な費用と時間を負担させましたが、費用に見合うベネフィットを提供できなかったのです。

ざい。数年前に、ハーバード・ビジネス・レビューのタイトル『IT doesn't matter』(それは、ITではありません)は、IT(情報技術)は、万能ではないことを揶揄したのであります。

われる会社であります。特に、マスコミや事例を活用したプレゼンテーションはすばらしかったのであります。経営幹部は、マスコミや株主を納得させる目的もありB社と契約することになります。

次に、B社は、D社とE社とコンサル契約を締結します。どうも、経理・財務陣が、契約の陣頭指揮を執った形跡がござい

戦略系コンサルの捻出する仮定にはすばらしいものが沢山あります。しかし、戦略を駆使したすばらしい組織改革や事業戦略のアイデアも、画一的であったり組織風土や社員のメンタリティへの充分な配慮を怠った場合、特に性急な改革をめざせば、ほぼ間違いなく組織の自立性を大きく損ないます。改革とは、組織の人が行動に移して初めて効果を期待できるものです。押し付けられた改革は、大きなリスクととらえるべきです。また、経営幹部の中には、これはヤバイと察知しておられる方も多くいるのも事実です。その方たちには、そこで歯止めをかける責任を再考していただきたいと思ひます。

の科学を持ってしても、当時の冶金技術の再現は不可能なのだそうです。さて、知識が陳腐化する事は重大な事実です。しかも、知識労働者数は、増加しております。知識労働者の代表企業である戦略系コンサル会社の功罪を考えてみます。あくまでもフィクション、頭の体操として、お付き合いいただきたい

A社は、ERP(統合基幹業務システム)の大手の一つであります。約十年前に、ある国では、銀行の不良債権が引き金となり、金融危機に直面しました。大国も不良債権処理にプレッシャーをかけてきました。当時他の産業で実績をあげていたA社のシステムが、その国の銀行に次々と導入されました。しかし、そ

は、多くのことを学ばせてくれます。しかし、その国の企業は、終わった事に関しては、無頓着な傾向があります。その国では『のどもと過ぎれば熱さを忘れ』というふうであります。その国では、企業の売り上げのおよそ2%弱がIT(情報技術)へ投資されていますが、その三分の一は、不良資産となっている報告もご

は、歴史のある大企業が大半であります。当時、半導体業界においても成長と利益という観点から大きな課題に直面いたしました。そういった厳しい時代に、外資系のB社という大手のコンサル会社が登場します。自分達へ任せたいとありとあらゆるアプローチを仕掛けてきます。いわゆる戦略系とい

事業戦略を策定して実行します。最終的に、設備投資と研究開発に関する投資を極限までおさえます。そして、大きな赤字を出さない会社へ生まれ変わります。しかし、事業戦略を精査いたしますと、今後、成長と利益というものをさしで判断いたしますと、大きな疑問を投げかけられているのであります。

『やっつけられねえよ。外資(害し)系のコンサルはいらぬ。禰(ふんどし)と冗談は、またにしてくれ。』と啖呵をきります。そして、現在、H社は、先端技術力といい、利益率といい、サブバイバルできる事が確信できる状態であるそうです。

二五〇〇年前に、ギリシャのヒポクラテスは言いました。『知りながら害をなすな』(隔週掲載)